

第3次
若狭町
観光振興ビジョン
2021年度~2025年度



都びとより愛されし

食と雅遊の国まち若狭町

「5彩の水が織りなす自然、歴史、文化を活かした観光まちづくり」

第3次

若狭町観光振興ビジョン

2021年度～2025年度

都びとより愛されし食と雅遊の^{まち}国 若狭町

～5彩の水が織りなす自然、歴史、文化を活かした観光まちづくり～



第1章

第3次 若狭町観光振興ビジョンの策定について

1-1 本ビジョン策定(見直し)の趣旨

若狭町観光振興ビジョンは、若狭町らしい観光振興のための基本理念（将来像）および基本方針、取り組み内容の考え方を示すものです。また、基本理念の達成のため、観光を取り巻く環境の変化に対応しながら、観光資源の掘り起こしと十分な活用により、官民一体となり観光振興に取り組んでいくものです。

若狭町は平成21年（2009年）5月に「住んでよし、訪れてよし、食べてよし…`ほんもの`の魅力`若狭町`」を基本理念に掲げ、若狭町観光振興ビジョンを策定。平成28年（2016年）3月に見直し、第2次若狭町観光振興ビジョン（以下「前ビジョン」という。）を策定し、観光振興に取り組んできました。

前ビジョンを策定してから5年が経過し、観光を取り巻く環境が大きく変化しました。主な変化として、ひとつは令和2年（2020年）から流行した新型コロナウイルス感染症です。世界的な感染拡大により、観光需要は大きく減少し、若狭町においても観光産業は大打撃を受けました。緊急事態宣言の発令や令和2年（2020年）7月から開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックも延期されるなど、国民生活が大きく変わり、国際的なイベントにも影響を与え、未だに収束が見通せない状況です。しばらくは国内外の旅行が回復するまでの動向を見極める必要がありますが、このウィズコロナ、アフターコロナと言われる時代に合った観光振興が望まれます。

もうひとつは、令和6年（2024年）に予定されている北陸新幹線敦賀開業です。首都圏や北陸新幹線沿線地域からの来訪が見込まれます。現在福井県を訪れる観光客層としては中京・関西地域からが約65%を占め、首都圏からは約10%未満と少ない状況です。北陸新幹線延伸により、首都圏や沿線エリアの新規開拓を図るチャンスであり、選ばれる観光地として磨き上げる必要があります。さらに、令和7年（2025年）には大阪・関西万博の開催が予定されていることから、外国人観光客のさらなる増加が見込め、日本固有の歴史や文化などに関心が高まることも期待できます。

この大きな環境の変化に対応すべく、現状を踏まえつつ広域的な視点や外部からの視点を持ち、若狭町のあるべき姿の実現に向かって、官民の共通の目標および取り組みとなる第3次若狭町観光振興ビジョンを策定します。

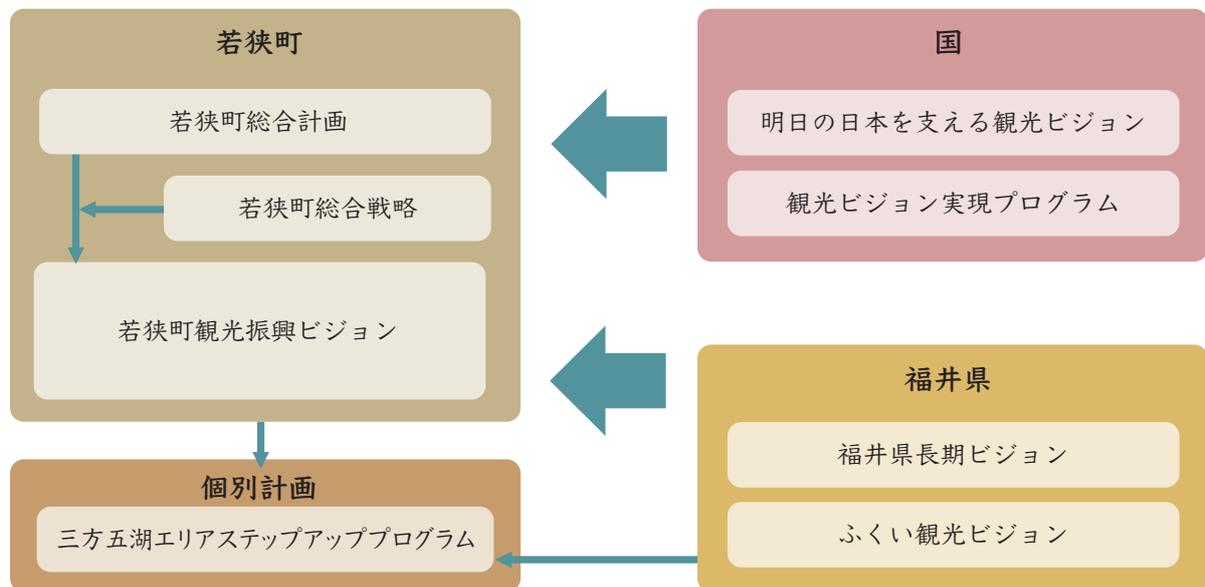
また、本ビジョンを通じて町民の皆さんにとっても若狭町の再発見に繋がり、誇りに思い、皆さんとともに観光まちづくりを目指すものとします。

1-2 計画期間

令和3(2021)年度 ~ 令和7(2025)年度

1-3 本ビジョンの位置づけ

本ビジョンは国や県の観光ビジョンと方向性を合わせるとともに、「若狭町総合計画」および「若狭町総合戦略」を推進するための観光振興計画として位置づけられ、今後の観光振興を進めていくうえでの基本理念や方向性を定めるものです。



1-4 本ビジョンのコンセプト

本ビジョンでは若狭町が目指す観光振興の基本理念を定め、基本方針に沿って、基本施策、アクションプランを実施していきます。

- 基本理念 — 目指す将来像
- 基本方針 — 基本的な考え方
- 基本施策 — 基本的な取り組み内容
- アクションプラン — 具体的な取り組み内容

基本理念

若狭町が目指す観光振興の基本理念（将来像）を次のように定めます。

みやこ 都びとより愛されし食と がゆう まち 雅遊の国 若狭町

～5 さい 彩の水が織りなす自然、歴史、文化を活かした観光まちづくり～

古代から塩や海産物などの食材を都に運び、

都の雅な食文化を支えてきた御食国若狭。

若狭湾や三方五湖など豊かな水資源が育む食材は、

いにしへの都びとに愛されてきました。

5彩の水、すなわち海水、汽水、淡水、湧水、流水（川）が織りなす

自然と食、町並みや人々の暮らしは、

歴史に裏付けられた若狭町の“ほんもの”の魅力です。

そして、間近に迫った北陸新幹線敦賀開業。

若狭町だけでなく嶺南地域が一丸となり、それぞれの強みを活かし、繋げ合い、

金沢を超えてはるばるやってくる人たちに

選ばれる地域を目指さなくてはなりません。

“ほんもの”を楽しみ、5彩の水と優雅に遊べる「雅遊」のまち、

そして、いつの時代も都の人に愛されるまち。

若狭町はそんなまちを目指します。

基本方針

基本理念（将来像）を達成するために、2つの基本方針（基本的な考え方）を定めます。

STEP 1

“ほんもの”の魅力の再発見と 「雅遊」のための洗練・再構築

自然、食、町並み、暮らしなど今ある“ほんもの”の魅力を、御食国のテーマにおいて再発見し、観光客がこれをゆっくりと雅やかに堪能できるよう、再構築し、ストーリー化します。

STEP 2

観光客の受入環境の整備と 洗練された“ほんもの”の魅力の効果的な伝達

基本的な観光客の受入環境を整えながら、洗練された“ほんもの”の魅力を国内および海外の誘客圏の人びとに効果的に伝えます。

1-5 第3次 若狭町観光振興ビジョン 体系図

基本理念
(将来像)

基本方針

基本施策

アクションプラン

都びとより愛されし食と雅遊の国若狭町

まち

5彩の水が織りなす自然、歴史、文化を
活かした観光まちづくり

STEP 1

“ほんもの”の
魅力の再発見と
「雅遊」のための
洗練・再構築

I

御食国の食を知る、活かす

- 1 食材のブランド化・リブランド化を図ろう
- 2 食の魅力を高める人材を育成しよう
- 3 若狭の雰囲気味わえる地の物でもてなそう
- 4 食を活かしたイベントを開催しよう
- 5 地域の特徴を最大限発揮するための宿・飲食店づくりを進めよう

II

「雅遊」の環境を整備する

- 6 5彩の水の景観や歴史・生活文化を活用するための環境を整備しよう
- 7 新しい「雅遊」を演出しよう
- 8 観光資源を保全しよう

III

外からの目を活用し、
観光まちづくりにおいて
協働する

- 9 外からの目を借りて町の魅力を再発見しよう
- 10 観光まちづくりのために、観光事業者と住民が手を携えよう
- 11 「観光空間」を認識し、広域連携しよう

STEP 2

観光客の受入環境の
整備と洗練された
“ほんもの”の魅力の
効果的な伝達

IV

来訪者へ“ほんもの”の
魅力を伝える

- 12 みんなで語り部になろう
- 13 人と人とのふれあいを大事にしよう
- 14 快適な滞在環境を提供しよう

V

新たな観光客を誘客する

- 15 ウィズコロナ時代はマイクロツーリズムを意識しよう
- 16 関東圏および中部内陸県から誘客しよう
- 17 外国人観光客の誘客を促進しよう

第2章

観光を取り巻く現状と課題

国は人口減少、少子高齢化という大きな課題に対し、重要施策として地方創生を掲げています。観光産業は経済効果、雇用効果、地域住民の郷土愛の高まりなどへの期待から、地方創生の切り札ともいえます。ここでは、国や県、若狭町の観光を取り巻く現状と課題を整理します。

2-1 国・県・町の取り組み

■国の取り組み

観光先進国への新たな国づくりに向けて、平成28年（2016年）3月、「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」において、「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定。世界が訪れたい日本を目指し、2030年に訪日外国人旅行者数を6,000万人、訪日外国人旅行消費額を15兆円などとする目標を立て、「3つの視点」と「10の改革」に取り組んでいます。

日本は、自然・文化・気候・食といった観光振興に必要な4つの条件を兼ね備えた、世界でも数少ない国のひとつであり、これらを誇りを持って磨き上げ、その価値を日本人にも外国人にも分かりやすく伝えていくことにしています。（資料編：資料3参照）

■福井県の取り組み

●福井県長期ビジョン（2020年度～2040年度）

2040年に福井県の人口は64.7万人に減少すると推計される一方で、同時期までには北陸新幹線やリニア中央新幹線の全線開業など、立地条件が飛躍的に向上していると考えられます。高速交通体系の完成を最大限に活かしながら、2040年に向けた県民の行動指針と将来像を共有して福井県のさらなる発展に向けて行動していくため、「福井県長期ビジョン」が策定されました。

基本理念を「『安心のふくい』を未来につなぎ、もっと挑戦！もっとおもしろく！」と定め、嶺南地域の将来イメージとして、「上質なくらしの先駆け『WAKASA リフレッシュエリア』」を形成することとしています。県内においても若狭エリアは、自然や歴史が揃っており、関西圏からも近いという位置付けで、豊かな歴史と自然環境、洗練された美しい街並みに惹かれ、国内外から多くの人に移り住み、未来技術を活用した新しい働き方と質の高い生活を両立する「くらしの先進地」を目指すこととしています。（資料編：資料4参照）

●ふくい観光ビジョン（2020年度～2024年度）

福井県においては、北陸新幹線県内開業や中部縦貫自動車道県内区間開通など高速交通網の整備進展のほか、大阪・関西万博等の大規模な国際イベントの開催など誘客拡大の好機が到来します。この機を最大限に活かし、県民一丸となって取り組んでいく指針として「ふくい観光ビジョン」を策定。基本理念を「観光でこころひとつに、活力ある地域の創造～ふくいブームの創出からムーブメント、文化へ～」とし、観光客目線の情報発信等を集中的に行うことで、多方面から注目が集まるふくいブームを創出。観光を通じて交流人口拡大を図り、SDGsの理念に沿って地域の持続可能性を高めるとともに、新たな価値を定着させ、ブームを一過性で終わらせないムーブメント、さらには文化へと高めていくこととしています。（資料編：資料5参照）

●三方五湖エリアステップアッププログラム（2018年度～2023年度）

三方五湖エリアは、豊かな自然や食、歴史等を活かし、若狭湾エリアの周遊・滞在の拠点となる観光地づくりを進めることで、北陸新幹線敦賀開業時に敦賀から西への大きな人の流れを生み出すことが期待されています。この三方五湖エリアの活性化に向けたプロジェクトを具体化するため、福井県、美浜町、若狭町、両町の観光・農業・漁業・環境等の団体で、平成30年（2018年）に「三方五湖エリア全体協議会」を設立し、「福井県三方五湖エリアステップアッププログラム」を策定しました。（資料編：資料6参照）

■若狭町の取り組み

●第2次若狭町総合計画「まちづくりプラン」(2018年度～2022年度)

町の最上位計画で、経済、福祉、教育、環境、まちの基盤整備などあらゆる分野の施策について、長期的な視点に立って取りまとめた計画です。

人口減少や少子高齢化が進む中、若狭町のまちづくりを担っていく若者世代の移住・定住を促進し、地域で活躍することによって生まれていくまちづくりや、交流の拡大による地域の活性化や新たな出会いが、新しい感動として広がっていくこと、また、人と人、人と自然などの繋がりによって、次代まで笑顔が広がるふるさととして守り、育てていくことを目指し、基本構想（まちの将来像）を「新しい感動と笑顔がひろがるまち」と決めました。（資料編：資料7参照）

●第2期若狭町総合戦略～若狭町の人口減少に立ち向かう～（2020年度～2024年度）

若狭町の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した方法によると、2040年には11,300人程度に減少し、さらに2060年には8,300人程度まで減少すると推計され、地域社会・経済の活力が失われ、町としての機能の維持が困難になることが予想されています。

本総合戦略は、現在の人口を2060年に1万人程度を維持するため、人口減少対策に特化し

た取り組みをまとめたものです。基本目標のひとつとして、「活力を育む交流を拡大する」ことが掲げられており、豊富な観光資源や食材を活かした交流人口の拡大を目指しています。（資料編：資料8参照）

●若狭町文化財保存活用地域計画（2021年度～2030年度）

文化財保護法改正（2019年）にもとづく法定計画で、若狭町における文化財の保存・活用に関するマスタープランかつアクションプランです。若狭町の目指す目標や中長期的に取り組む内容を定めます。目標とする将来像は「御食国若狭の源流からの年縞的生成発展」で、「自然と共生する文化を積み重ねる」・「多面的な交流を創り出す」の2つの軸から文化財の保存と活用を目指します。Ⅰ．人と自然のたゆまぬ共生、Ⅱ．御食国若狭の始まり Ⅲ．京へつながる鯖街道の往来 Ⅳ．神仏信仰とともにある民俗文化の4つの関連文化財群と8つの保存活用区域を定めます（2021年夏 文化庁認定予定）。

2-2 観光客の動向

■全国的な動向

新型コロナウイルス感染症の拡大により「新しい生活様式」という大きな変革が人々の暮らし、観光施策にも影響を与えています。コロナ禍においては、人の移動や3密（密閉・密集・密接）を避けながら観光を楽しむ「マイクロツーリズム（自宅から近場の観光）」志向も高まりました。

また、観光客のニーズが多様化し、観光施設を周遊するだけでなく、その土地ならではの体験やそこに住む人と交流をしてみたいという“ほんもの”志向の観光客が増加傾向にあります。団体旅行から小グループ・個人旅行へ、発地型観光から着地型観光へとシフトし、テーマ性の高い体験・交流型の要素を取り入れたニューツーリズムが注目されています。

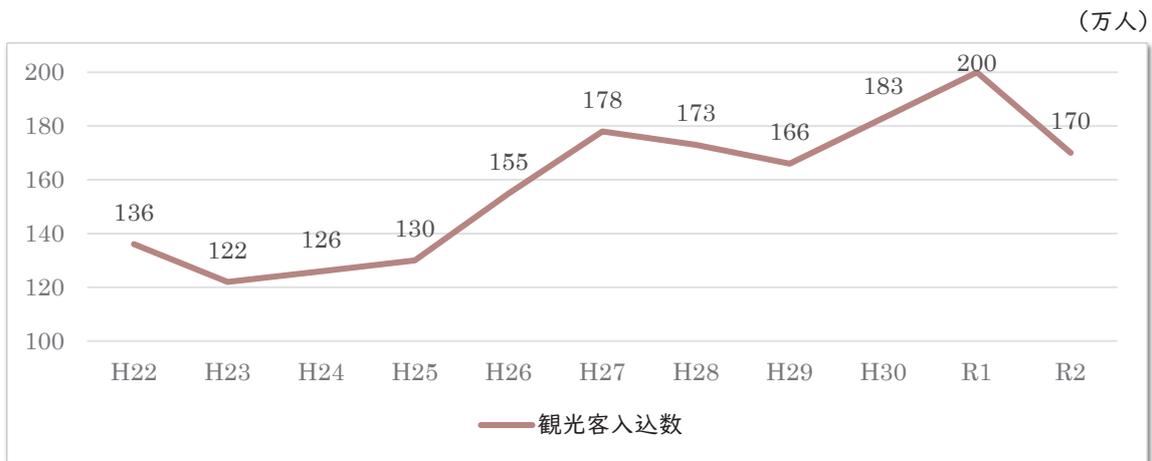
インバウンド市場も量から質へとシフトし、和を感じる体験や日本の文化や暮らしに触れることができる観光が求められ、地方への関心の高まりも見られます。

■福井県・若狭町の観光客の動向

若狭町の観光客入込数は、舞鶴若狭自動車道の全線開通や道の駅三方五湖のオープン、福井県年縞博物館のオープン、レインボーライン山頂公園のリニューアル、縄文ロマンパークのリニューアルなどの効果があり、ここ10年で飛躍的に観光客が増加しています。福井県の観光客入込数と比較しても、推移が似ており、他市町に遅れを取ることなく、町の観光施策の効果が表れていると言えます。

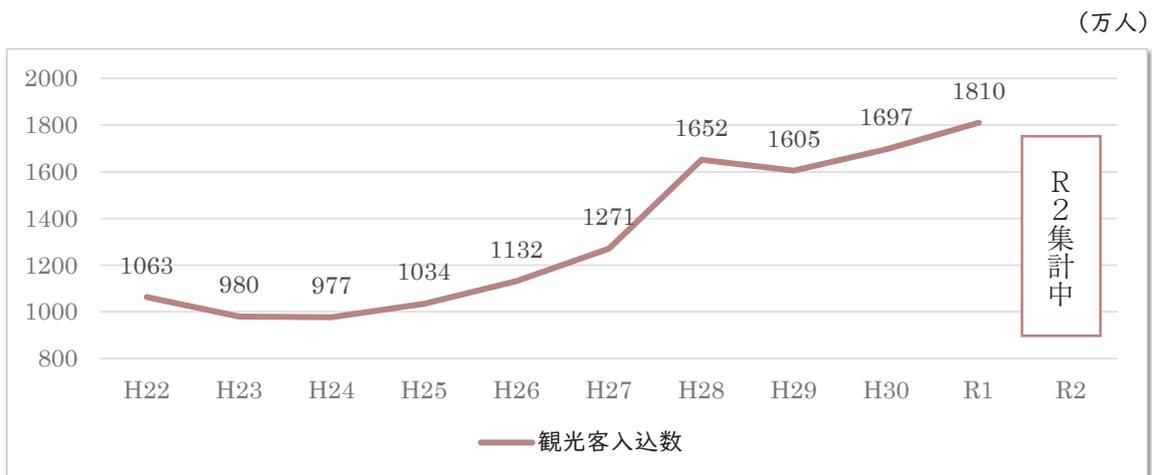
令和3年（2021年）以降も、レインボーライン山頂公園・山麓の第2期リニューアルや熊川エリアの若狭アドベンチャーツーリズム拠点整備など大規模な整備も予定されているほか、2024年の北陸新幹線敦賀開業なども控えており、ますます観光客の増加が期待できます。

◆図表1 若狭町観光客入込数



若狭町観光未来創造課調べ

◆図表2 福井県観光客入込数



出典：令和元年福井県観光客入込数

■若狭町主要観光地入込状況

レインボーラインはリニューアル効果もあり、令和元年では前年比131.6%と大きく伸ばし、多くは県外客の増加（対前年比7万5千人増）でした。道の駅三方五湖や常神半島などレインボーライン周辺の観光地でも併せて増加しており、観光地の整備は周辺施設まで波及効果があることが分かります。しかし、年々減少している観光地もあり、ブラッシュアップや新たな体験、周遊観光を創出するなどの対策が必要です。

◆図表3 若狭町主要観光地入込状況（延べ人数）（入込数5万人以上）

（万人）

観光地名	令和元年		平成30年	対前年比
	県内客	県外客		
レインボーライン	37.1	5.6	28.2	131.6%
熊川宿・道の駅若狭熊川宿	46.5	9.3	48.8	95.3%
道の駅三方五湖	25.7	5.1	23.4	109.8%
常神半島	22.9	2.7	20.5	111.7%
福井県海浜自然センター	13.0	2.6	12.9	100.8%
若狭瓜割名水公園	11.2	2.2	11.8	94.9%
梅の里会館	10.8	1.6	11.8	91.5%
みかた温泉きららの湯	9.9	6.9	9.1	108.8%
福井県年縞博物館	5.9	2.7	2.1	281.0%

出典：令和元年福井県観光客入込数

※千人未満を四捨五入

※福井県年縞博物館は平成30年9月開館

※令和2年は新型コロナ流行の影響で例年と異なる数値のため、令和元年と平成30年のデータを活用しています

■四季別入込状況

県の調査によると、大型連休の連休数や自然災害など影響により、年によって増減がありますが、夏が一番多く、冬が一番少ないことが分かります。若狭町においても各観光施設の入込数を見ると、同様のことが言えます。夏は海水浴、冬は若狭ふぐやカニといった民宿・旅館での料理を楽しみに来町される方が多いです。

◆図表4 若狭町観光入込数

区分	令和元年	構成比	平成30年
春（3～5月）	53万人	26.5%	48万人
夏（6～8月）	62万人	31.0%	58万人
秋（9～11月）	59万人	29.5%	55万人
冬（1～2月、12月）	26万人	13.0%	22万人
計	200万人		183万人

出典：令和元年福井県観光客入込数

※令和2年は新型コロナ流行の影響で例年と異なる数値のため、令和元年と平成30年のデータを活用しています

◆図表5 福井県観光入込数

区分	令和元年	構成比	平成30年
春（3～5月）	510万人	28.1%	452万人
夏（6～8月）	526万人	29.1%	520万人
秋（9～11月）	481万人	26.6%	491万人
冬（1～2月、12月）	293万人	16.2%	234万人
計	1,810万人		1,697万人

出典：令和元年福井県観光客入込数

※千人未満は四捨五入。ただし、端数調整のため令和元年春の数値は切上げ

※令和2年は新型コロナ流行の影響で例年と異なる数値のため、令和元年と平成30年のデータを活用しています

■県外客の発地別入込状況

県の調査によると、関西地区からの入込客数が約4割を占めています。令和元年において、関西地区からの入込数が前年度に比べて大幅増となった理由として、レインボーライン山頂公園のリニューアルや福井県年縞博物館の開館の効果があったと分析しています。一方で関東地区からの入込数は全体の1割未満と低い状況で、認知度不足やアクセスが不便であることが影響していると考えられます。

◆図表6 県外客の発地別入込状況（福井県全体）

区分	令和元年	構成比	平成30年
関西地区	380万人	42.1%	339万人
中京地区	239万人	26.4%	202万人
関東地区	80万人	8.9%	76万人
北陸地区	122万人	13.4%	120万人
その他	84万人	9.2%	75万人
計	905万人		812万人

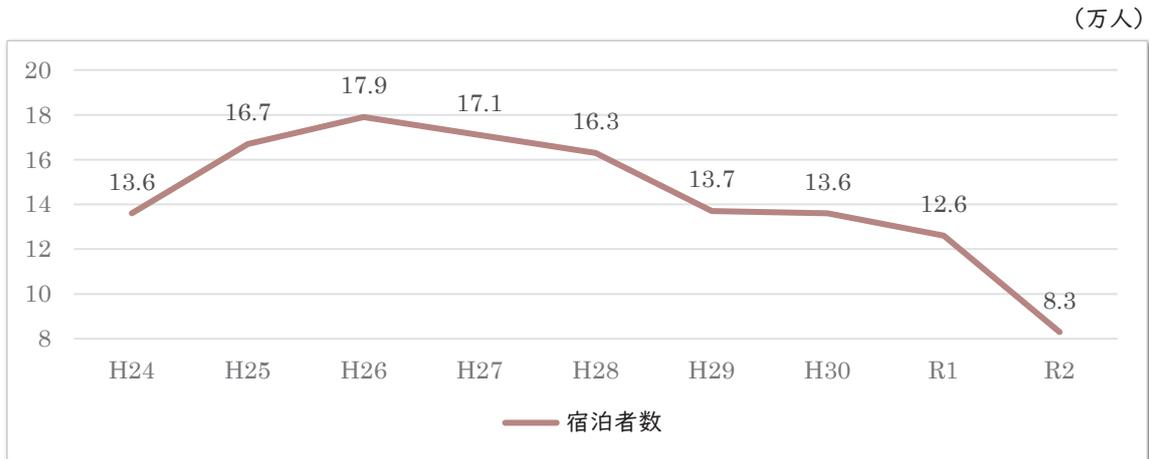
出典：令和元年福井県観光客入込数

※令和2年は新型コロナ流行の影響で例年と異なる数値のため、令和元年と平成30年のデータを活用しています

■ 宿泊者数の推移

観光客が増える一方で、民宿の宿泊者数が減少しています。この要因として、宿泊施設数が減少（資料編：資料9参照）していることや高速交通網の発達により日帰り観光が増えていることが考えられます。

◆ 図表7 若狭町宿泊者数（推計）

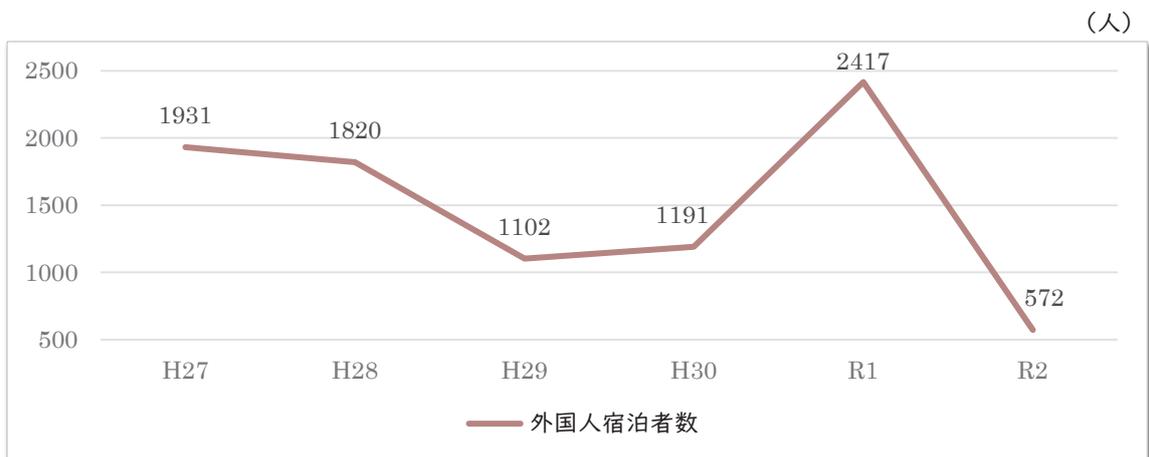


若狭町観光未来創造課調べ

※ R2は新型コロナ流行の影響で大きく減少

※すべての宿泊施設の集計ではないため推計値としています

◆ 図表8 若狭町の外国人宿泊者数（推計）



若狭町観光未来創造課調べ

※ R2は新型コロナ流行の影響で大きく減少

※すべての宿泊施設の集計ではないため推計値としています

2-3 前ビジョンの振り返り

平成28年（2016年）に改訂した前ビジョンでは、平成26年（2014年）の舞鶴若狭自動車道の全線開通、平成27年（2015年）の北陸新幹線金沢開業などの高速交通ネットワークの整備が進み、さらに平成30年（2018年）の「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」、令和2年（2020年）に開催されるはずだった東京オリンピックなどを好機ととらえ、「また来たい」と思う満足感を得られるような町全体のおもてなし力を向上させる基盤づくりに取り組みました。

施設整備においても、平成27年（2015年）の道の駅三方五湖、平成30年（2018年）の三方五湖スマートインターチェンジ、若狭町みさき漁村体験施設、縄文ロマンパークのリニューアル、令和2年（2020年）のレインボーライン山頂公園のリニューアルなど、観光拠点がいくつも完成しました。また、熊川エリアでの空き家の活用や三方五湖エリア全体協議会の発足など、いずれも官民協働による取り組みが行われました。

その結果、年間観光入込客数が目標値を大きく上回りました。一方で推進事業を実施する体制やプレイヤーが不足しており、手つかずの事業や廃止になった事業もありました。

◆図表9 前ビジョンの数値目標達成状況

目 標	H26実績	H31目標	H31実績
1. 若狭町の食の魅力をも高める			
①新たな商品開発数	0品	1品	6品
②町内直売所の販売額	8,000万円	1億6,000万円	1億8,539万円
2. 若狭町固有の自然・歴史・文化を活かす			
③三方五湖自然体験型イベント	1回	2回	2回以上
④縄文博物館体験講座などの参加者数	3,950人	4,500人	2,870人
⑤レイククルーズ利用者数	22,600人	25,000人	12,100人
⑥日本遺産を活用した地域イベント開催数	2件	5件	1件
⑦広域連携のPRイベント開催数	0件	1件	※1
⑧教育旅行者数	4,073人	5,000人	2,728人
⑨農村民泊軒数	12軒	20軒	10軒
⑩若狭町観光サポーター数	7名	8名	※2
3. まちぐるみでおもてなしの心を育てる			
⑪観光まちなみ魅力アップ事業	-	3事業	3事業
⑫空き家活用件数	4件	15件（5か年）	42件
⑬定期的な清掃活動（一斉清掃活動）	-	年2回	年2回
4. ほんものの魅力を伝える			
⑭外国人観光客の宿泊数	1,200人	1,800人	2,417人
⑮観光入込客数	1,501,600人	1,550,000人	2,000,600人
⑯嶺南地域での広域連合を設立し、広域観光を振興	-	-	※3

※1・・・若狭湾観光連盟で嶺南市町が連携した出向宣伝など年数回実施。

※2・・・観光サポーター制度は廃止されたが、首都圏在住の町出身者らで組織する「東京若狭会」が2012年2月に発足し、首都圏でのPR活動などを行っている。登録者178人（2021年3月現在）。

※3・・・嶺南地域での広域連合は設立されていないが、若狭湾観光連盟を中心に、嶺南6市町が連携した広域観光を推進している。

2-4 若狭町の観光資源の分析

次に、本ビジョンを策定する上での大きな変化は北陸新幹線の敦賀までの延伸であるため、これを考慮しながら、若狭町の観光資源および状況についての分析を行います。(資料編：資料10、11参照)

■若狭町の観光の SWOT 分析

SWOT (スウォット) 分析とは、ビジョンや戦略を企画する際に利用する現状分析手法のひとつです。若狭町の「強み (Strength)」「弱み (Weakness)」「機会 (Opportunity)」「脅威 (Threat)」を抽出し、整理します。



Strength

強み 若狭町の魅力であり、他エリアより優位性のあること

●多様な水資源

若狭湾や三方五湖をはじめ、名水百選瓜割の滝、近畿一美しい川北川など水資源が豊富であり、その水に育まれた食や文化が継承されている。

●7万年前から続く歴史的遺産

世界標準のものさしといわれる年縞を有しているほか、縄文文化、古墳群など古くから歴史ある地域である。

●古都との繋がり

膳臣や御食国、鯖街道といった奈良や京都との歴史的な繋がりがある。

●自然を活かしたアクティビティ

サイクリング、カヤック、SUP、トレイル、ウォーキングなどが盛ん。

●関西・中京方面から近距離

舞鶴若狭自動車道の開通により、両方面からのアクセスが格段に向上している。

●都市部大学や東京若狭会との連携

大妻女子大学、東洋大学、立命館大学など都市部の大学のほか、首都圏在住の町出身者の会「東京若狭会」と協働関係が築かれている。

Weakness

弱み 若狭町の課題であり、改善が必要

●交通、観光ルートの整備が不十分

2次交通の確保がこの地域の最大の課題であり、車がないと周遊が困難である。

●首都圏での認知度不足

町や観光地の認知度があまりに低い。

●観光に携わる人材、観光を支える人材が不足

観光ガイドや語り部が不足しているほか、第1次産業ほか観光を支える生産活動従事者が高齢化し、後継者が不足している。

●宿泊施設の減少

宿泊客増加の前提となる宿泊施設が、施設の老朽化や後継者不足といった原因により減少している。

●ホームページやSNSなどの情報発信が不十分

地域全体が情報化社会に疎く、ホームページやSNS、アプリの有効活用がされていない。

●観光資源間や嶺南市町との連携が不十分

嶺南市町間連携や情報共有が徐々に行われているが、まだまだ観光施設個々の取り組みにとどまっている。

機会

今後チャンスが訪れ、追い風となること

- 北陸新幹線敦賀開業、大阪・関西万博

2024年北陸新幹線敦賀開業、2025年大阪・関西万博により多くの首都圏居住者、外国人が訪れることが期待できる。

- 観光ニーズの多様化

観光資源が多彩な若狭町は、“ほんもの”を求められる体験型・着地型観光のコンテンツ開発には有利。

ウィズコロナにおける機会

- マイクロツーリズムの流行

近隣の旅行を楽しむマイクロツーリズムの需要が高まり、若狭町においても隣接県やこれまで入込が少なかった福井県嶺北からの観光客が増加している。

- 密を避けることができる自然観光や新しい働き方の普及

安全・安心、少人数旅行などのニーズの高まりもあり、広々とした自然の中の観光やソーシャルディスタンスを確保できるサイクリングのようなアクティビティが好まれているほか、ワーケーションなどの新しい働き方・過ごし方が注目されている。

脅威

今後、観光振興するうえで逆風となること

- 北陸新幹線沿線エリアとの差別化

上越妙高から敦賀に至る海沿いの沿線の観光地（富山、金沢、能登、福井など）とは異なる魅力を提供できないと首都圏からの誘客に繋がらない。

- アクセス向上による町内宿泊への誘因の低下

舞鶴若狭自動車道の開通により、自動車によるアクセスが向上したことにより、日帰り客や若狭町を通過してより遠方へ旅行する人が増える可能性がある。

Threat

第3章

将来像の達成に向け、重点的に取り組むこと

前章で述べた強みや課題をもとに若狭町が目指す基本理念（将来像）を定めました。この基本理念の達成に向け、2つの基本方針（基本的な考え方）に沿った基本施策（基本的な取り組み内容）と官民協働で取り組む具体的なアクションプランを皆さんとともに実現します。

3-1 基本理念とその考え方

今回設定した基本理念およびその考え方の詳細は以下のとおりです。

■基本理念（再掲）

みやこ 都びとより愛されし食と雅遊の国 若狭町
がゆう まち
～5彩の水が織りなす自然、歴史、文化を活かした観光まちづくり～

若狭湾や三方五湖などの豊富な水資源に育まれた食材は、古代より奈良や京都の朝廷への貢進物として珍重され、若狭国は「御食国」の1つとしてその名を馳せていました。若狭町の今に残る自然、食、町並み、暮らしはこうした歴史に裏付けられた“ほんもの”の魅力を持っています。

他方で、近年における日本人の観光においては、そうした“ほんもの”を見て、食べて、交感するといった体験が求められるようになっていきます。

そこで、本ビジョンにおいては、5彩の水（海水、汽水、淡水、湧水、流水）に育まれた“ほんもの”の観光資源を活かし、現代の人々がかつての都人のように優雅に遊べるまちとなることを基本理念と定めます。

■本ビジョンの3つの着眼点と核となる2つのエリア

(1) 3つの着眼点

近年の国内観光においては、観光施設を周遊するだけでなく、その土地ならではの体験やそこに住む人と交流をしてみたいという“ほんもの”志向が増えており、テーマ性の高い体験・交流型の要素を取り入れたニューツーリズムが注目されています。

このような観光客の目的・意向に応えられる若狭町の“ほんもの”を再発見するに先立ち、それらを支える共通要素として、以下の3点に着目することとしました。（資料編：資料12）

①多様な水資源

若狭湾や三方五湖だけでなく、名水百選「瓜割の滝」や近畿一美しい川とされる「北川」、熊川宿を流れる清流の用水もあります。つまり、若狭町内には、海水、汽水、淡水、湧水、流水という5彩の水が揃っており、これが他の地域にはない若狭町の歴史や文化、食を特徴づけています。これこそが若狭町のあらゆる観光資源の基盤と言えます。

②御食国（食）

若狭国は「御食国」として古代から海産物を中心とした若狭の美物を都に運び、皇室・朝廷に珍重されるとともに、都の食文化に大きな影響を与えてきました。それは、皇室・朝廷から食に関するお墨付きを与えられていたことを意味します。水資源に支えられた豊富な食材は、現在においてもその名にふさわしいものであり、「御食国」は「ほんものらしさ」を担保する地域ブランドとして注目されるべきものです。

③古都との繋がり

御食国であった若狭国と古都との結びつきは食材だけではありません。人や物が往来する中で培われた有形無形の文化もまた、有力な観光資源として“ほんもの”の魅力を発揮しうるものです。若狭町において全国的にも稀有なほど多彩で密度の高い往来文化遺産群が形成されていることは、大いに注目されるべきことです。

(2) 核となる2つのエリア

若狭国の一部をなす若狭町ですが、固有の地域文化のまとまりを考慮すると、まちを以下の2つのエリアに分けて考えることが有効です。（資料編：資料12）

①三方五湖・若狭湾エリア

三方五湖周辺から若狭湾、常神半島などからなるエリアです。湖と海（すなわち、5彩の水のうち、海水、汽水、淡水）が織りなす自然景観が素晴らしく、「御食国」の名にふさわしく魚介類などの食材が豊富で、特産福井梅の栽培も盛んです。北陸新幹線敦賀開業時には若狭地域への周遊を促す核として位置づけられます。

②熊川エリア

鯖街道における最大の宿場町であった熊川宿、河内川ダム周辺、名水百選瓜割の滝など（すなわち、5彩の水のうち、湧水、流水）からなるエリアです。同エリアは古代から続く歴史を活かしたツーリズムや河内川ダム周辺の活用に取り組み、関西圏からのゲートウェイとしての役割を担います。

■ターゲットの設定

若狭町が持つ観光資源や観光動向、今後の見通しなどを踏まえ、誘客圏および観光客の属性について次のとおりターゲットを設定します。

(1) メインターゲット：首都圏 / 30～50代の中年層

北陸新幹線敦賀開業が本ビジョン計画期間における新たな誘客の最大のチャンスであることから、首都圏の来訪者をメインターゲットとします。若狭町の豊富な自然や日常風景、食は都会の喧騒に疲れた方に癒しを与える場所として訴求できるものと期待されます。また、若狭町は首都圏から遠方であり、宿泊を伴う旅行が主流になると考えられることから、一定の収入がある中年層をターゲットとします。

このことは、「観光経験」を重ねた外国人観光客についても通じると考えられます。

(2) サブターゲット：関西・中京都市圏 / 若者・ファミリー層

これまでも若狭町への観光客の主要な出発地であった関西・中京方面に向けては、若者とファミリー層をターゲットとし、多彩な自然環境を活かしたアクティビティやテーマ性を高めたプログラムを開発します。

また、ワーケーション、二拠点居住などの形で若狭町との交流促進を見込めるターゲットエリアでもあります。

(3) サブターゲット：県内、北近畿地方など近隣地域

コロナ禍で注目された「マイクロツーリズム」の動きを一過性のものにしないよう、近隣地域をターゲットとしたPRも行います。



■基本方針（再掲）～理念達成のためのステップ～

基本理念を達成するためには、まず、若狭町の“ほんもの”を、外からの目を借りながら私たち自身で再発見し、その価値を再認識する必要があります。

そのうえで、その“ほんもの”を、観光客が御食国の文脈の中で時間をかけてゆっくりと味わうに値するものに磨き上げ、受入環境を整えながら、これを国内外の誘客圏の人たちに効果的に伝えなければなりません。

そこで、2つのステップからなる基本方針を次のように定めます。

基本方針



STEP 1

“ほんもの”の魅力の再発見と
「雅遊」のための洗練・再構築



STEP 2

観光客の受入環境の整備と
洗練された“ほんもの”の魅力の効果的な伝達

3-2 基本施策とアクションプラン

2つの基本方針（基本的な考え方）に沿った5つの基本施策（基本的な取り組み内容）と官民協働で取り組む具体的なアクションプランを次のとおり定めます。

基本施策

I 御食国の食を知る、活かす

特産品ブランドを地域ブランドに結び付けるため、御食国の魅力あふれる食の存在をまず私たちが再認識しよう。

それとともに、食材そのものの魅力だけでなく、視覚的にも認知的（ストーリー）にも食の味わいを一層深めるような食の提供の仕方を探って、お客様をもてなす準備をしよう。（資料編：資料13参照）



① 食材のブランド化・リブランド化を図ろう

◎アオリイカ、フナ、コイ、薬草のブランド化

- 近年、若狭町の名物となっているアオリイカ、三方湖の伝統漁法たたき網で捕獲するフナやコイ、新たな取り組みとして活用を検討している薬草など、町の特色ある食材をしっかりとブランド化しよう。

◎福井梅、熊川葛、山内かぶらなどのリブランド化

- すでにブランド化されている福井梅、熊川葛、山内かぶら、若狭ふぐ、へしこなどを市場や顧客のニーズに合わせて再構築しよう（リネーミング、イメージ空間の特定化など）。

◎“ほんもの”性を損なわない新規商品の開発

- 歴史や文化、地域性など、ここならではのもの、ここだけのものといった“ほんもの”を損なうことなく、むしろそれを強調できるような単独商品や、若狭エリアの名産品とのコラボ商品を開発しよう。

②食の魅力をもつめる人材を育成しよう

●御食国の食材および食文化史の勉強会

- 来訪者に一言うんちくが語れるように、若狭町の食材（形、味、栄養などについての特徴およびそれを活かす新旧料理方法）やそれら食材の背景にある風土（気候、水系、海流、土質等）、歴史（御食国と若狭街道、膳臣と古墳群、北前船等）、食にゆかりのある地名（塩坂越、食見など）の由来について学ぼう。
- 日本酒やワインについて学び（利き酒師やワインソムリエの資格取得をめざすなど）、地酒と食材のマリアージュなど、来訪者に食材・料理を一層楽しんでもらう方法を考えよう。
- 御食国当時に都で作られていた料理をアレンジし、メニュー開発してみよう。

●伝統的食材・料理継承の支援

- 若狭町の暮らしが感じられる伝統・伝承料理を掘り起こし、料理の由来や食材の情報について検証し、継承に努めよう。
- 伝統・伝承料理をアレンジし、メニュー開発してみよう。

●食事空間の演出方法（食器、室内設え等）のレベルアップ

- 来訪者に「若狭の世界」に浸ってもらうべく、地域の食材を活かす食器の選択や盛り付け方、室内の設えなど、食事の場の演出方法を学ぼう。
- まち全体が食事を楽しむ空間であると捉え、景観の価値、若狭町（エリアごと）の住文化など、まちの空間のあり方について学ぼう。

●食材生産者と食材使用者のマッチング機会の創出

- 食材生産者（特産品や地域の食材等）と食材使用者（民宿や飲食店）とのマッチング機会をつくり、地域の食材を流通するきっかけとしよう。
- 食材使用者が食材生産者の思いやエピソードを食事提供時の「語り」にできるようにしよう。
- 地産地消を推進するとともに、飲食店等が望む品を生産する「地消地産」に取り組もう。
- 食事提供の際、お品書きに地元特産品を明記しよう。

③若狭の雰囲気をもつめる地の物でもてなそう

●若狭湾エリア（敦賀半島～丹後半島）の食材や食器を知る機会の創出

- 若狭町だけでなく、若狭湾エリアの食材・食器を知る機会をつくろう。

◎「地の物」を3次元でとらえ、地域を味わってもらおう

● 第1次元：福井県嶺南地域

若狭湾沿岸地域の食材を知り、若狭産の食材、地酒、水などを使った料理を、若狭湾エリアの食器（若狭塗、越前焼、須恵野焼など）をもって提供しよう。

● 第2次元：若狭町全域

若狭町内の食材を知り、鳥浜酒造、瓜割の滝の水など固有名詞のある飲食物を提供しよう。

● 第3次元：若狭町内エリア

・食事提供施設のある町内エリア（若狭湾・三方五湖エリアまたは熊川エリア）それぞれの独自の飲食物を提供しよう（除：日本酒、水）。

・宿泊者だけでなく日帰り観光客も楽しめるよう、エリアごとの特徴を活かした昼食を提供しよう。

● 固有次元（第4次元）：各宿泊施設

第1～3次元の地域性を活用しながら、各宿泊施設の個性を出そう。

④食を活かしたイベントを開催しよう

◎地元および首都圏でのブランド化する食のアピール

- 地域の方にも食を知ってもらうほか、首都圏でのアピールの場を設けよう。
- 第1次元の「地の物」については、他の自治体と連携して統一的にアピールしよう。

⑤地域の特色を最大限発揮するための宿・飲食店づくりを進めよう

◎地元らしさ、“ほんもの”らしさを醸し出すための店舗、空間デザインの充実支援

- 嶺南地域の伝統工法を引き継ぐ地元大工による施設の外観修復を支援しよう。全国どこでもみられる新建材はなるべく使用しないようにしよう（特に視界に入りやすい壁部分において）。
- プラスティック食器などの“にせもの”は使用しないようにしよう。

◎民宿・旅館、飲食店間の連携

- 熊川宿や常神半島各地区のように地区単位でまとまったブランディングが必要なところでは、地区ごとの統一感を醸すため、連携しておもてなしの充実を図ろう。

II 「雅遊」の環境を整備する

若狭町にゆっくり滞在しながらその魅力を、五感を通じて十分に味わってもらえるような「雅遊」(スロートーリズム)の環境を整備し、来訪者の「経験価値」を高める仕掛けづくりをしよう。

アクション プラン

⑥5彩の水の景観や歴史・生活文化を活用するための環境を整備しよう

◎三方五湖・若狭湾エリアの整備

- サイクリングルート、御神島ビュースポット、梅林鑑賞コースなどの整備をしよう。サイクリングルートは三方五湖周回コースのほか、嶺南地域で連携し、ナショナルサイクルルートの認定を目指そう。
- 丸木舟(和船)体験の実施や舟小屋の保存活用など、この地に伝わる歴史を活かした湖面活用をしよう。

◎熊川エリアの整備

- 若狭アドベンチャーツーリズムを推進するため、トレイルコースの整備や河内川ダム周辺を整備しよう。高島トレイルと連携し、滋賀県や美浜町からの来訪者を増やそう。
- 熊川エリアを中心に若狭町全体の若狭トレイルコースを整備しよう。
- 熊川宿内の古民家を活用し、観光客をもてなそう(飲食、お土産、宿泊など)。
- 景観を損ねないように注意しながら、誘導・案内看板を充実させよう。

⑦新しい「雅遊」を演出しよう

◎ウェルネス観光の推進

- 地元の食(和のハーブなどを含む)とアクティビティ・古来の健康法(呼吸法など)を組み合わせた若狭町独自のウェルネス観光プログラムを開発しよう。
- 参加者が自然や町並みを楽しみながら健康増進でき、参加者の宿泊も期待できる「若狭・三方五湖ツーデーマーチ」を通して、観光地の魅力向上に繋げよう。

※ウェルネス観光とは健康になることを目的とした観光・旅行。

◎景観堪能アクティビティの充実

- 若狭町の重要な観光資源である「自然景観」を、季節ごと、一日の時間帯ごとに堪能(五感で楽しむ)できる独自の体験プログラム(サイクリング、カヌー、シーカヤック、気球など)を開発しよう。その中の一部に「雅」をテーマとしたアクティビティを取り入れよう(満月の夜の水月湖ツアーなど)。
- 朝から夜まで楽しめるプログラムを複数開発することで、近い関西・中京圏から若年層の観光客が宿泊したくなるようにしよう。

●歴史ツーリズムの推進

- 時代ごとに分けてテーマ化（原始、古代、中世～近世）するなどの「見える化」を図りながら、歴史が経験できるプログラムを開発しよう。
- 福井県京都事務所、鯖街道まちづくり連携協議会、全国街道交流会議などと連携し、鯖街道を活用した誘客策に取り組もう。

●生活文化ツーリズムの推進

- 海のない県などを対象に、漁師の暮らし体験をプログラム化しよう。
- 宿場での宿泊体験のプロモーション（含：旅籠の再生）、農家での食住労体験をプログラム化しよう。

●教育旅行の推進

- 子どもたちの生きる力を育むため、農山漁村で宿泊を伴う体験プログラムを提供し、嶺南地域で連携して受け入れよう。
- 旅マエ、旅ナカ、旅アトを意識したプログラムを開発し、より探究学習に取り組める体験を提供しよう。

●ウィズコロナ時代の新しい旅行スタイルの推進

- 新しい働き方として注目されている、ワーケーションやブレジャーへの対応に取り組もう。観光施設では感染予防対策を徹底し、安全・安心な旅行を提供できる環境を整えよう。

※ワーケーションとはワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた造語で、通信環境が整った観光地などで、休暇を楽しみながらリモートワークを行う働き方。閑散期の民宿や若狭町みさき漁村体験施設「みさきち」を活用。

※ブレジャーとは、ビジネス（business）とレジャー（leisure）を合わせた造語で、業務での出張先で滞在を延長するなどして旅行も楽しむこと。

⑧観光資源を保全しよう

●持続可能な観光の推進（食資源の適正活用等）

- フナやウナギなどの希少種は、乱獲を避け、少ないことを逆手にとって高級ブランド化しよう。
- 観光客には自然や食を「消費」するだけでなく、環境維持の活動への「参加」を楽しんでもらえるようなプログラムを開発しよう。

●景観保全活動の実施（清掃、保全、修景、景観阻害看板の撤去等）

- その土地ならではの建物や自然の風景からなる景観が、美しい町並みとして認識される貴重な観光資源であることを自覚し、それを阻害するものに注意しながら、その“ほんもの”らしさの保持に努めよう。

Ⅲ 外からの目を活用し、観光まちづくりにおいて協働する

在住者とは異なる「まなざし」をもって訪れる観光客に先立ち、外からの目を借りて町の魅力を掘り起こし、その見せ方において協働しよう。

アクション プラン

⑨外からの目を借りて町の魅力を再発見しよう

◎都市圏の大学生や飲食店等との連携

- これまで大妻女子大学、東洋大学、立命館大学などと連携した町の活性化に取り組んできたが、今後も都市圏の大学生と連携し、外からの目を借りて町の魅力を再発見し、連携プロジェクトなどを通じて地域活性化に取り組もう。
- 大学生の親など、都市圏の中年層の目を借りる機会も作ろう。
- 福井県アンテナショップや都市部の飲食店と連携しながら、都市消費者に評価してもらえる物産、土産物を開発し、改善を続けていこう。

◎知られざる名所を発掘

- 若狭町内にはまだまだ県外に知られていない歴史や価値ある名所があるので、これを再発見しよう。一言神社、三方石観世音、常神のソテツ、みかえりの松、諦応寺の銀杏観音、佐久間勉艇長記念館など。
- 地名の由来など、地域の歴史を語り合い、学び合う機会を作ろう。

◎アドバイザー派遣制度の確立等

- 地域文化への配慮のない汎用的な助言によって地域性を失う（画一化する）といったことのないように注意しながら、ブランド化、空間設計、情報発信などにおいて専門家の助言を受けよう。

◎観光事業者・インフルエンサーの若狭湾視察の実施

- 北陸新幹線に関連する観光事業者などを選択的に若狭町の視察に招待しよう。
- ターゲット地域、年齢層に対する発信能力のあるインフルエンサーを選び、若狭町の視察に招待しよう。
- 他の自治体と連携し、若狭湾全域についてこれを実施しよう。

⑩観光まちづくりのために、観光事業者と住民が手を携えよう

◎観光事業者と住民による連携プログラムの企画

- 室内空間、品揃え、観光客との交流などを考えるワークショップを開催しよう。
- アクティビティなどを実施する観光事業者と連携したプランを開発しよう。

◎DMOなど観光地域づくり法人との連携

- 三方五湖 DMO 株式会社など地域資源を活用し、稼げる観光地づくりを目指す法人と連携しよう。

◎地元小中高校との連携プログラムの企画と郷土愛の醸成

- 美方高校や若狭東高校と食に関して連携するほか、地元小中高校生が地域について楽しく学ぶ「探究学習」に協力することで、子どもたちの郷土愛の醸成を図るとともに、子どもたちの新鮮な発想による資源発掘や情報発信を観光振興に取り入れよう。

⑪「観光空間」を認識し、広域連携しよう

◎広域滞在プラン設定における連携

- 日帰り訪問客だけでなく宿泊客を増やすため、近隣自治体と連携した観光プランを開発し、若狭湾全域での滞在日数を増加させよう。

◎ゾーニングとゾーニングごとの連携形態の考案

- 第1次元（福井県嶺南地域）、第2次元（若狭町）、第3次元（三方五湖・若狭湾エリアと熊川エリアの2区分）に観光空間を区分し、テーマごとにそれぞれの提携相手を特定し、プログラム開発、ツアー開発などにおいて連携しよう。

例：熊川 & 戦国時代→熊川城、国吉城、金ヶ崎城をめぐるツアー
 若狭地方全域 & 古代→敦賀から丹後まで気比神宮をめぐる旅
 熊川 & 古代～近世→鯖街道の歴史ツアー

◎食材流通等における連携

- 若狭町だけでなく嶺南地域の食材にも目を向け、お互いに流通・活用しよう。

IV 来訪者へ“ほんもの”の魅力を伝える

景色の美しさや食材のおいしさは、その歴史的背景、由来、関係する人々の物語とともにあってこそ、より一層味わい深くなるものであることを念頭に、観光事業者や観光ボランティアガイド、体験ガイドだけでなく、町民ひとりひとりが町の語り部である意識を持って、土地の言葉で町の魅力を伝える工夫をしよう。



⑫みんなで語り部になろう

◎郷土史、生活文化（漁村文化、農村文化等）の勉強会開催

- 地元中高の教員（地理・歴史）、郷土史家、博物館学芸員を講師に迎えての勉強会を開催しよう。

- 特定テーマ（例：王の舞、若狭の民家、神功皇后など）ごとに専門家を招聘して勉強会を開催しよう。

◎語り部育成支援

- 観光ガイドを育成しよう。「分野別語り部達人認定制度」「ご当地検定」などの制度の創設も検討しよう。
- 自分が知っている豆知識や生活文化そのものが来訪者にとっては新鮮なことであり、新発見なので、町内で生活する一人ひとりが語り部だという意識を持とう。

⑬人と人とのふれあいを大事にしよう

◎住民によるおもてなし活動の推進

- 「歩く観光客に声をかけよう」運動を推進しよう。
- 住民一人ひとりの自宅や店舗をはじめ、田畑や看板など観光客の目に入るあらゆるものが町並みを形成しているという自覚の醸成を促すとともに、美しい町並みの保全・実現に必要な修景への支援をしよう。

◎「交流」という観光動機に応える仕組みづくり

- 各観光組合などにおいて、定期的な日曜朝市などを開催し、観光客と地元住民との交流機会を創出しよう。

◎若狭ファンづくり

- 来訪者がリピーターになり、若狭町のファンになる仕組みづくりを行うなど、関係人口を深化させよう。

⑭快適な滞在環境を提供しよう

◎Wi-Fi環境の整備の推進など、情報社会適合のための環境を整備。

- 宿泊施設や観光施設において、観光客の滞在中の生活や観光情報の取得に欠かせなくなっているWi-Fiなどの通信環境を整えよう。

◎キャッシュレス化や宿泊客のプライバシー志向への対応。

- 海外ではキャッシュレス決済が主流の国もあり、近年国内でも電子マネーやQRコード決済などの利用が増えてきていることから、対応できる環境を整えよう。
- プライベート空間を保ちたいニーズがあることから、宿泊客のプライバシー志向への対応を考えよう。

◎敦賀駅から観光地へのアクセスの向上

- 県や嶺南市町が連携して広域バスを運行するなど、観光地へのアクセスを向上させよう。
- 三方五湖エリアと熊川エリアを結ぶ周遊バスを運行し、アクセスを向上させよう。

◎超小型モビリティやレンタサイクルの利用促進

- 公共交通機関利用者や宿泊施設宿泊者への超小型モビリティやレンタサイクルの貸与を推進しよう。

●環境にやさしい周遊を応援

- EV 充電装置を各スポットに配備して、EV、電動アシスト付自転車での周遊を快適なものにできるようにしよう。

●それぞれの宿泊施設を超えた町内連泊の促進。

- 町内連泊割引制度を創設するなど、連泊する仕組みを促進しよう。

V 新たな観光客を誘客する

コロナ禍の下、近場の旅行「マイクロツーリズム」需要が増加している中、当面は県内、近隣県からの誘客に力を入れよう。北陸新幹線の敦賀までの延伸を見据え、今のうちから首都圏から誘客するための布石を打とう。

インバウンド需要はコロナ禍の影響でしばらくは低迷が見込まれるものの、コロナ収束を見据え、引き続き集客力向上の努力をしよう。



⑮ウィズコロナ時代はマイクロツーリズムを意識しよう

●福井県嶺北地域や北近畿、滋賀県への PR を強化

- マイクロツーリズムを意識し、これまで PR が手薄だった嶺北地域や近隣県、若狭湾観光連盟と連携を始めた北近畿に向けて PR を強化しよう。

⑯関東圏および中部内陸県から誘客しよう

● SNS や動画サイト等を活用した情報発信

- インスタグラム、フェイスブックなどの SNS や YouTube などの動画サイトを活用して情報発信しよう。

●イベント等を通じた首都圏および北陸新幹線沿線内陸県での PR 強化

- 北陸新幹線敦賀開業を見据え、首都圏や長野県や群馬県などの沿線内陸県での PR を強化しよう。

●若狭町出身者等の協力による PR 活動

- 東京若狭会や関西若狭会など都市部在住の町出身者やゆかりのある方と連携し、若狭を PR しよう。

●ロコミ、土産物、特産品（梅など）を通じた観光情報の発信

- SNS 以外にも、来訪者が満足して行うロコミ、土産物の包装紙などあらゆるものが広告媒体になり得ることを認識し、これらを効果的に活用して観光情報の発信を行おう。

⑰外国人観光客の誘客を促進しよう

●和を感じることができる体験や食の提供

- 日本ならではの風景、文化、食に触れることができるツアーや体験を提供しよう。

●外国人教育旅行の誘致

- これまでから実績のある台湾や香港をはじめ、海湖のない地域からの教育旅行を誘致しよう。

●台湾との交流促進

- 若狭湾観光連盟や美浜町、おおい町が台湾との友好関係にあるという強みを活かして交流を促進しよう。

●外国人に優しい環境整備

- 案内板や観光パンフレットの多言語対応を、景観や日本にきたという実感を阻害することのないように工夫しながら進めよう。
- 民宿や旅館、飲食店などで受入れできる環境づくり（キャッシュレス決済、翻訳機の導入など）に努めよう。

●外国人に届く情報発信

- コロナが収束するまではオンラインを活用したプロモーション活動を展開しよう。
- 海外エージェントやインフルエンサーの招聘、訪日留学生との連携を通して、外国人に届く効果的な情報発信をしよう。

●大阪、京都へのPR強化

- 大阪や京都、北近畿には多くの外国人が訪れているので、福井県大阪事務所や京都事務所などとも連携し、外国人に対する効果的なPRを行おう。

3-3 目標数値

目標数値1 年間観光入込客数

令和元年（2019年）		➔	令和7年（2025年）	
200万人			240万人（20%UP）	
R2	R3	R4	R5	R6
170万人 （実績）	190万人	210万人	220万人	235万人

（資料編：資料14参照）

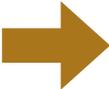
目標数値2 年間延べ宿泊者数（推計）

令和元年（2019年）		➔	令和7年（2025年）	
12.6万人			14.5万人（15%UP）	
R2	R3	R4	R5	R6
8.3万人 （実績）	10.0万人	12.6万人	13.0万人	14.0万人

目標数値3 道の駅の売上合計（道の駅三方五湖、道の駅若狭熊川宿）

令和元年度（2019年度）		➔	令和7年度（2025年度）	
1億7,460万円			2億950万円（20%UP）	
R2	R3	R4	R5	R6
1億7,000万円 （見込み）	1億7,500万円	1億8,000万円	1億8,500万円	1億9,500万円

目標数値4 教育旅行受入数

令和元年度（2019年度）			令和7年度（2025年度）	
32校（2,728人）			38校（3,300人）	
R2	R3	R4	R5	R6
10校 （実績）	20校	32校	34校	36校

目標数値5 観光消費額（推計）

令和元年度（2019年度）			令和7年度（2025年度）	
63.4億円			76.5億円	
R2	R3	R4	R5	R6
42.2億円	56.2億円	63.4億円	68.0億円	74.5億円

観光未来創造課算出

3-4 推進体制と役割

観光振興は直接的には観光事業の興隆に表れるものですが、若狭町が“ほんもの”の魅力で観光振興しようとしている以上、ほんもの生活文化を生み出し続ける町民の暮らしの営みこそが観光資源であり、皆さん自身が観光振興の主役なのです。町外に住む出身者や町を愛する人たちの力も借りながら、それぞれの持てる力を結集して若狭町の観光を盛り上げていきましょう。

若狭町の皆さん

- 観光イベントに積極的に参加しよう。
- 町の魅力を再確認し、家族をはじめ多くの人に町の魅力を伝えよう。
- 一人ひとりがおもてなしの心を持って来訪者に接し、積極的に交流を図ろう。

観光関連団体・事業者の皆さん

- 強みや技術を活かしたサービスを提供しよう。
- 業種を超えて積極的に連携・協働し、新しいコト・モノを生み出そう。
- 観光客に町の魅力を広く伝え、周遊滞在を促進しよう。

町外に住む若狭町出身者や町に縁のある皆さん

- あなたが住むまちや職場で若狭町の魅力を伝えよう。
- 若狭町の最新情報を入手しよう。
- あなたが住むまちのトレンドを若狭町に伝えよう。
- たまには若狭町に行こう、帰ろう。

若狭町観光ビジョン推進委員会(仮称)

- 行政や観光協会とともにビジョンの推進に取り組みます。
- 推進状況をチェックし、必要な取り組みを提案します。

若狭町(行政)

若狭三方五湖観光協会

- ビジョンを計画的に推進するため、各種団体や専門家との連携、関係者の支援に取り組みます。
- 積極的に意見を吸い上げるとともに、観光動向を見極め、観光振興に必要な整備や施策を実施します。
- 国や県の情報を入手し、支援制度を活用します。
- 嶺南市町をはじめ、広域的な連携を推進します。

資料

■資料Ⅰ 若狭町観光振興ビジョン策定経緯

年月日	内容	
2020年7月13日	第1回策定懇話会 第1回策定委員会合同会	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱 ・本ビジョンの策定について ・今後の進め方について
2020年8月31日	第2回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・前ビジョンの振り返り ・目指すべき姿について
2020年9月23日	第3回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・町固有の資源や強みを整理
2020年10月19日	第4回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本理念案について ・アクションプランについて
2020年11月16日	第5回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプランについて ・目標数値について ・推進体制について
2021年3月15日	第2回策定懇話会 第6回策定委員会合同会	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ

■資料2 若狭町観光振興ビジョン策定懇話会・策定委員会委員名簿

策定懇話会

No.	氏名	所属	備考
1	竹越 聡	(一社) 若狭三方五湖観光協会 会長	会長
2	山下 寿和	若狭里海湖の宿組合 会長	
3	石田 靖彦	(株) レインボーライン 代表取締役	
4	岡本 宏一	熊川宿観光組合 組合長	副会長
5	長田 浩二	わかさ東商工会 副会長	
6	玉井 喜廣	若狭町副町長	

策定委員会

No.	氏名	所属	備考
1	岡 勝之	(一社) 若狭三方五湖観光協会 副会長	委員長
2	朝倉 收	若狭瓜割名水公園管理組合 組合長	副委員長
3	時岡 壮太	(株) デキタ 代表取締役	
4	藤原 康寛	西浦地域づくり協議会 観光交流部会長	
5	桜井 千晴	民宿女将	
6	田辺 一彦	(一社) 若狭路活性化研究所 代表 三方五湖 DMO (株) 取締役	
7	尾崎 恵里	(有) かみなか農楽舎 取締役	
8	藤本 佳志	NPO 若狭物産協会 事務局長	
9	吉田 延昭	わかさ東商工会 青年部部長	
10	阪野 真人	(一社) switchswitch 代表理事 (一社) 熊川プロジェクト 理事	
11	高木 栄充	(一社) 若狭三方五湖観光協会 事務局次長	

アドバイザー

No.	氏名	所属	備考
1	宮田 安彦	大妻女子大学 家政学部ライフデザイン学科 教授	
2	岩本 克己	(一社) 若狭湾観光連盟 事務局長	

スペシャルサンクス：大妻女子大学家政学部ライフデザイン学科4年 中村文香様
(若狭町観光振興ビジョン冊子イラスト描画)

■資料3 明日の日本を支える観光ビジョン／平成28年(2016年)策定

◎明日の日本を支える観光ビジョンの「3つの視点」と「10の改革」

視点1 観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に

改革1 「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放

改革2 「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ

改革3 「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ

改革4 おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ

視点2 観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に

改革5 古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ

改革6 あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現

改革7 疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化

視点3 すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に

改革8 ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現

改革9 「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現

改革10 「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現

◎明日の日本を支える観光ビジョンの5つの目標

項目	2020年	2030年
訪日外国人旅行者数	4,000万人 (2015年の約2倍)	6,000万人 (2015年の約3倍)
訪日外国人旅行消費額	8兆円 (2015年の2倍超)	15兆円 (2015年の4倍超)
地方部での外国人延べ宿泊者数	7,000万人泊 (2015年の3倍弱)	1億3,000万人泊 (2015年の5倍超)
外国人リピーター数	2,400万人 (2015年の約2倍)	3,600万人 (2015年の約3倍)
日本人国内旅行消費額	21兆円 (最近5年間の平均から約5%増)	22兆円 (最近5年間の平均から約10%増)

出典：明日の日本を支える観光ビジョン

■資料4 福井県長期ビジョン（2020年度～2040年度）

【嶺南地域 / 将来イメージ（2040年頃）】

- ▶ 京都・大阪との近接性、自然や歴史・文化・食の魅力、安心の子育て環境を活かし、嶺南から関西に通勤し、創造的に働きながら文化的・健康的に過ごせる「くらしの先進地『WAKASA リフレッシュエリア』」
- ▶ スマートエリアの整備、デコミッションング（廃炉）ビジネスの育成、新たな試験研究炉を核とした研究・人材育成の拠点化や産業創出により、「人や企業が集まる嶺南Eコーストエリア」
- ▶ 新幹線や敦賀港のクルーズ船からの外国人が三方五湖や鯖街道、人道の港、漁家民宿など「嶺南の自然と歴史を楽しむインバウンドリゾートエリア」
- ▶ 人々の手で守り継承されてきた伝統芸能・祭り、寺社仏閣、食文化などを学び、交流する「伝統文化を学び体感するエリア」

【嶺南地域 / 施策の方向性（2020～2024年度）】※若狭町関連のみ抜粋

◎観光拠点の磨き上げ（観光受入れ環境の整備）

- ▶ 年縞博物館の魅力向上
- ▶ 里海湖の景色を堪能するサイクリングロード形成
- ▶ 三方五湖エリアステップアッププログラムに基づく周遊ツアーや体験メニューの充実、漁家民宿のレベルアップなどの推進
- ▶ 熊川宿重要伝統的建造物群保存地区での古民家改修などの交流施設の整備
- ▶ 河内川ダム周辺の整備、若狭トレイルの整備
- ▶ 熊川エリアおよび新庄エリアのトレイルコースの周遊や連携などの推進

■資料5 ふくい観光ビジョン（2020年度～2024年度）

戦略の体系

戦略の柱	項目
観光で「稼ぐ」	観光客の心をつかむ
	観光地域づくりをすすめる
観光で「ブームを起こす」	ブランド力を高める
	心惹かれる情報を届ける
観光で「世界を魅了する」	インバウンド目線で攻める
観光で「心を満たす」	すべての人にやさしい環境を整える

目標設定

		現状値 (平成30年)	目標値 (令和6年)	備考
定量 目標	観光消費額	1,313億円	1,700億円	約30%増加
	観光客入込数	1,697万人	2,000万人	約20%増加
	延べ宿泊者数	406万人	510万人	約25%増加
	外国人延べ宿泊者数	7.6万人	40万人	約430%増加
	来訪者満足度	46%	60%	約15ポイントの増加
定性 目標	観光関連サイトへの事業者の登録・県民の投稿件数を増やす			県民の観光への取組みのモニタリング指標

出典：ふくい観光ビジョン

■資料6 三方五湖エリアステップアッププログラム (2018年度～2023年度)

【三方五湖エリアの「目指す姿」】

「悠久の自然と人の営みをゆったりと堪能できる里海湖」

【「目指す姿」を具体化する5つのイメージ】

- 1 海・山・湖の自然景観や漁村・農村の風景がいつまでも保たれている（保全）
- 2 住民が地域の魅力を共有し、訪れた人に魅力を語るができる（住民主体）
- 3 自然や人の営みを体験し、その歴史や価値を学ぶことができる（体験・学び）
- 4 里山里海湖の恵みをおいしく手軽に味わえる（食）
- 5 多くの人が訪れ、ゆっくりと滞在したくなる（滞在）

■資料7 第2次若狭町総合計画「まちづくりプラン」 (2018年度～2022年度)

基本構想（まちの将来像）：「新しい感動と笑顔がひろがるまち」（観光関連抜粋）

基本戦略「活力を育む交流を拡大する」	
基本計画「地域の魅力を活かし、活力あるまちづくり（産業・雇用）」	
重点施策「魅力ある産業の育成」	
実施施策① 若狭ブランドの開発	
実施施策② 特産品の6次産業化の推進	
実施施策③ 公民連携による販売促進	
重点施策「魅力ある観光地づくり」	
実施施策① 三方五湖の周辺整備・活用	
実施施策② 熊川宿を活用した交流人口拡大	
実施施策③ ヘルスツーリズムの推進	
実施施策④ 体験型観光の充実	
重点施策「魅力ある雇用の創出と担い手育成」	
実施施策① 起業者への支援	
実施施策② 就業者への支援	
実施施策③ 地域産業のイメージアップ	
基本計画「自然・文化を後世へ継承するまちづくり」	
重点施策「歴史的資源を活用したまちづくり」	
実施施策① 熊川宿保存整備の促進	
実施施策② 三方五湖の自然・文化遺産の活用	

■資料8 第2期若狭町総合戦略～若狭町の人口減少に立ち向かう～ (2020年度～2024年度)

基本目標Ⅰ：活力を育む交流を拡大する

数値目標：観光入込客数 1,833,000人(2018年度)→2,100,000人(2024年度)

●具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

(ア)「魅力ある観光地づくり」

- ①三方五湖の周辺整備・活用
- ②熊川宿を活用した交流人口拡大
- ③ヘルスツーリズムの推進
- ④体験型観光の充実

(主な事業例)

- ◎若狭・三方五湖ツアーデーマーチ事業 ◎滞在型観光推進事業
◎河内川ダム周辺整備事業 ◎外国人誘致推進事業 など

KPI	2018基準値	2024目標値
イベント集客人数	42,744人	45,000人
広域連携のPRイベント開催数	1件	2件
若狭・三方五湖ツアーデーマーチ参加者数	2,916人	3,000人
教育旅行での体験学習受入人数	3,556人	3,800人

(イ)「歴史的資源を活用したまちづくり」

- ①熊川宿保存整備の促進
- ②三方五湖の自然・文化資産の活用
- ③古墳群の保存整備と活用

(主な事業例)

- ◎重要文化財建造物保存整備事業 ◎縄文博物館体験講座事業 ◎三方五湖自然再生促進事業 ◎発掘調査事業 ◎史跡の公有化事業 ◎史跡の復元整備事業 ◎周辺環境整備事業 など

KPI	2018基準値	2024目標値
重伝建建物保存整備の実施数	113件	123件
縄文博物館体験講座など参加者数	2,949人	3,200人

基本目標Ⅴ：若狭の資源で産業を元気にする

数値目標：町内直売所の販売額 205,312千円(2018年度)→210,000千円(2024年度)

●具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

(ア)「魅力ある産業の育成」

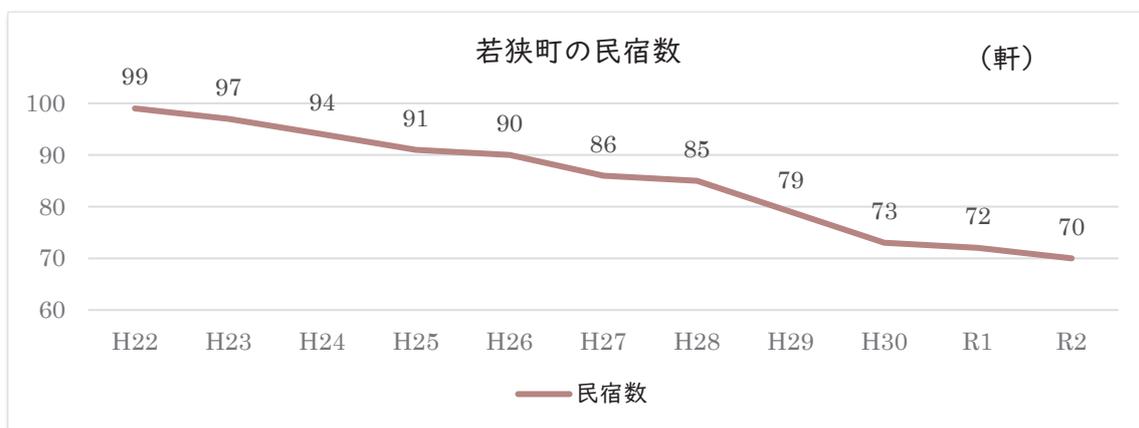
- ①特産品の6次産業化の推進
- ②若狭町ブランドの開発
- ③新規就農者の育成

(主な事業例)

- ◎若狭町梅振興ビジョン推進事業 ◎食育・地産地消推進事業
- ◎6次産業化推進事業 ◎新規就農者支援事業 など

KPI	2018基準値	2024目標値
6次産業を推進する新団体	0団体	1団体
6次産業を推進する新団体による新商品開発	0件	2件
新規就農者数	12人	17人

■資料9 若狭町の民宿数の推移



若狭町観光未来創造課調べ

■資料10 観光資源一覧

若狭町観光資源の認定等一覧（2020年度現在）

認定等の名称	備考	認定等年月日	
三方五湖			
国名勝	三方五湖の周辺と北西の常神半島を含めた地域。	S12.6.15	指定
若狭湾国定公園	若狭湾に面した海岸線を中心に指定された区域。	S30.6.1	指定
ラムサール条約登録湿地	三方五湖の湖水面	H17.11.8	登録
世界標準のものさし	水月湖年縞の放射性炭素年代測定による較正年代	H25.9	採用
日本農業遺産	三方五湖の汽水湖沼群漁業システム	H31.2.15	認定
レインボーライン			
恋人の聖地		H18.10.13	認定
クールジャパンアワード2019	三方五湖レインボーライン山頂公園足湯の展望台	R1.5.10	認定
熊川宿			
国重要伝統的建造物群保存地区	安土桃山時代から近世にかけて栄えた宿場町	H8.7.9	選定
日本遺産	海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鯖街道～	H27.4.24	認定
国重要文化財	荻野家住宅	H26.1.27	指定
平成の名水百選	熊川宿前川	H20.6.4	選定
日本風景街道	若狭熊川鯖街道	H19.11.14	登録
瓜割の滝			
名水百選		S60	選定
名水百選選抜総選挙	おいしさが素晴らしい名水部門全国第2位	H28.3.29	—
ふくいのおいしい水		H18	認定
水の郷		H8	認定
福井梅			
皇室献上	三笠宮家、常陸宮家、秋篠宮家	S52～	—
大相撲優勝力士贈呈		S61～	—
熊川葛			
林業遺産		H27	認定
山内かぶら			
地理的表示（GI）保護制度		H28.9	登録
若狭・三方五湖ツーデーマーチ			
日本マーチングリーグ	日本を代表する最も歴史あるマーチングリーグ。12番目の公式大会として認定。全国18大会で構成。	H7.11.3	認定

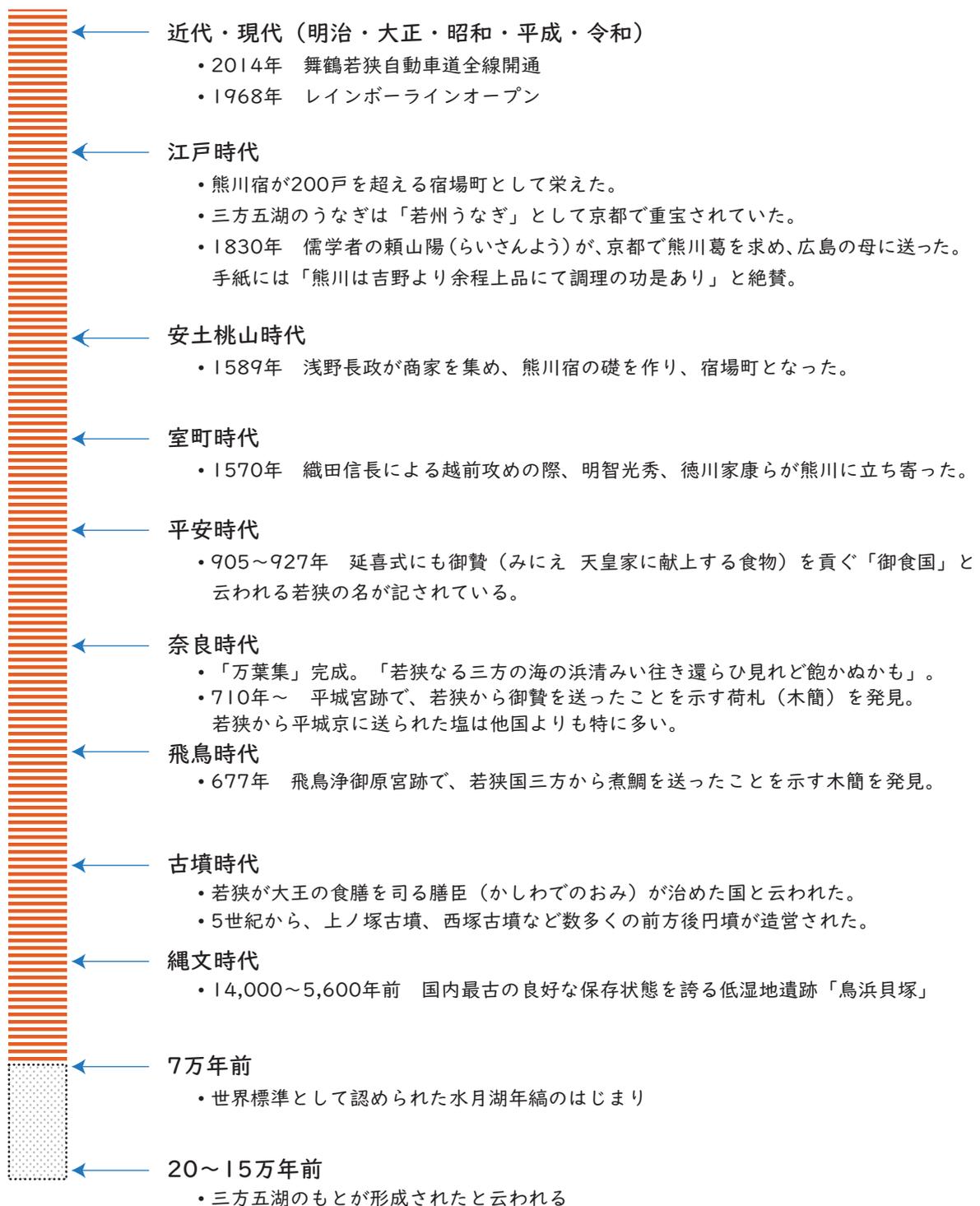
若狭町観光未来創造課調べ

■福井ふるさと百景（若狭町関連のみ抜粋）

名称	登録名称	所在	選定年月日
常神半島	神宿る半島 若狭常神	常神半島	H23.4
舟小屋	湖畔に佇む茅葺きの舟小屋	北庄・伊良積	H23.4
瓜割の滝	真夏の冷水 名水百選 瓜割の滝	天徳寺	H23.4
熊川宿	若狭から京へ続く鯖街道 熊川宿	熊川	H23.4
三方五湖	山頂から望む絶景 三方五湖	若狭町・美浜町	H23.4
王の舞	天狗が踊る 王の舞	若狭町・美浜町	H23.4
小浜線	若狭路満喫 小浜線	嶺南地域	H23.4

■資料Ⅰ 若狭町年表（7万年～縄文～古墳～古代～中世～江戸～令和）

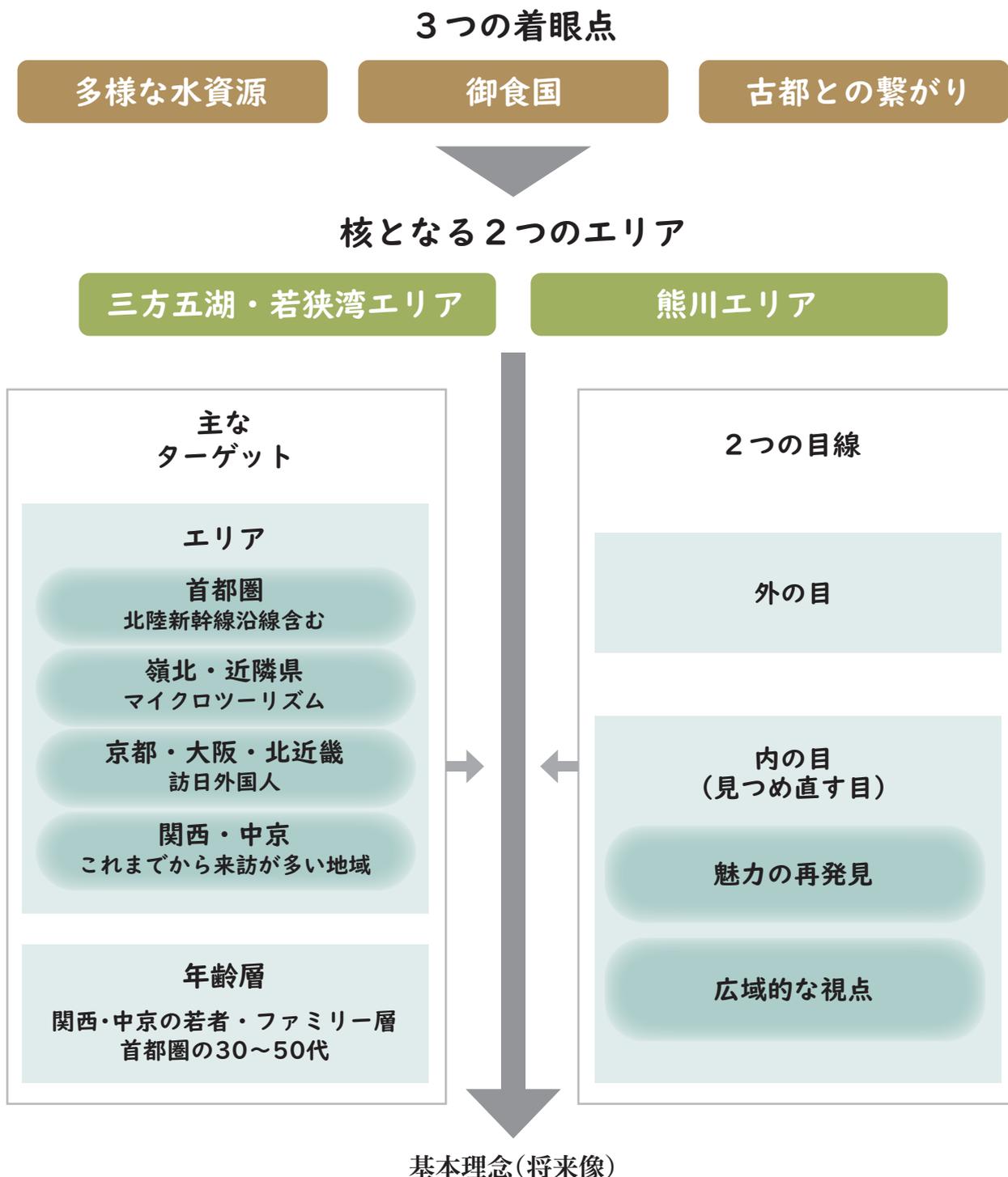
三方五湖のひとつ「水月湖」の湖底には「年縞（ねんこう）」と呼ばれる泥の堆積物が積み重なっています。その年月は約7万年分。そのうち5万年分が、考古学や地質学における放射性炭素年代測定を行えることから「世界標準のものさし」として世界から認められています。鳥浜貝塚に代表される縄文時代、御食国として朝廷に食材を提供していた古代、そして現在も私たちの隣で時を刻んでいます。その歴史を年縞に例えて見てみましょう。



■資料12 本ビジョンの基本理念概念図

本ビジョンの基本理念概念図

本ビジョンは3つの着眼点で、2つのエリアを核とし、基本理念の達成を目指します。



都びとより愛されし食と雅遊の国 若狭町^{まち}
～5彩の水が織りなす自然、歴史、文化を活かした観光まちづくり～

■資料13 福井県嶺南地域の特産品

市町名	特産品
敦賀市	敦賀ふぐ、敦賀真鯛、おぼろ昆布、かまぼこ、東浦みかん、求肥昆布、浜焼き鯖、豆らくがん、敦賀ラーメン、ソースカツ丼
美浜町	美浜のへしこ、早瀬浦（地酒）、美浜塩熟ぶり、ひるが響（寒ブリ）、若狭ビール
若狭町	福井梅、熊川くず、瓜割の水、アオリイカ、コイ、フナ、うなぎ、山内かぶら、梨、加茂栄（地酒）
小浜市	小浜よっぱらいサバ、なれずし、若狭かれい、小鯛のささ漬け、くずまんじゅう、谷田部ねぎ、若狭牡蠣、宇宙日本食の鯖缶
おおい町	菌床しいたけ、福井梅、福井サーモン、ぼたん鍋、自然薯、じねんじょそば、名田庄漬、栃餅、大島びわ
高浜町	たかはま鮓、若狭ふじ（葡萄）、杜仲茶、かまぼこ、椿みつ朗（わかさ椿）、和笑（芋焼酎）、いちご
若狭湾広域	若狭ふぐ、若狭ぐじ、若狭マハタ、へしこ

若狭町観光未来創造課調べ

■資料14 若狭町主要観光地の観光客入込客数の目標値

(万人)

観光施設名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
レインボーライン	37.1	37.8	46.0	51.7	54.3	56.3	58.3
熊川宿・道の駅若狭 熊川宿・河内川ダム周辺	47.6	38.8	40.0	47.0	49.0	52.0	53.0
道の駅三方五湖	25.7	23.1	25.0	25.7	27.0	28.5	29.0
常神半島	22.9	22.0	22.5	22.8	23.5	25.5	26.0
福井県海浜自然センター	13.0	10.3	12.0	13.0	13.5	14.5	14.7
若狭瓜割名水公園	11.2	8.4	10.0	11.2	12.0	12.6	12.8
梅の里会館	10.8	9.1	10.0	10.8	11.2	12.2	12.4
みかた温泉きららの湯	9.9	6.3	8.5	9.9	10.2	10.6	10.8
福井県年縞博物館	5.9	4.4	5.0	5.9	6.3	6.8	7.0
その他	15.9	10.0	11.0	12.0	13.0	16.0	16.0
合計	200.0	170.2	190.0	210.0	220.0	235.0	240.0

若狭町観光未来創造課算出

第3次 若狭町観光振興ビジョン（2021～2025）

令和3年（2021年）3月

発行 福井県若狭町

編集 若狭町観光未来創造課

〒919-1393 福井県三方上中郡若狭町中央1-1

TEL 0770-45-1111（代表）

